

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は釧路で生まれ、中学1年から高校までは札幌で生活しました。大学は北見で土木工学を学んだ後、平成11年に建設コンサルタント(港湾・漁港関係)に就職しました。現在は計画系業務に従事し、事業評価は港湾部門に本格的に導入された当初から担当し、今年で13年目になりました。

経歴のうち、平成17～18年には、北海道開発局港湾計画課内で事業評価業務に関する担当として従事したほか、平成20～21年には寒地港湾技術研究センターに出向し、港湾計画や漂砂解析等の委員会業務に従事しました。これら社外での業務経験により、人脈の大切さや、会社の評価は技術者個人に対する評判の蓄積により形成されていることを認識しました。このため、人脈の形成と個人能力の向上を目的として、北海道の主に港湾・水産関係技術者の技術力向上を目的とした北海技塾に入塾し、多くの先輩技術士の方々に添削指導やアドバイスを頂いたほか、当日の試験問題が専門分野という運も味方し、平成21年に技術士試験に合格することができました。本当にありがとうございました。

合格後は、概ね9月と2月に開催される事業評価審議委員会資料の作成で1年があっという間に過ぎるという生活が続いておりますが、仕事を通じて、社会基盤であるインフラの当初整備目的が概ね発揮されていることが確認できた際は、先人の培った技術力や先見性に感心しております。

最後に、今回の執筆を通じて、改めて自分自身を見つめ直すきっかけを与えて頂き、ありがとうございました。次は、寒地港湾技術研究センター出向時に同期でした東川さんにバトンタッチさせて頂きま

す。東川さん、どうぞ、宜しくお願いいたします。

石黒 一郎 (いしぐろ いちろう)

●建設部門(港湾及び空港)

勤務先

北日本港湾コンサルタント株式会社



→次号は、東川典裕さん(建設部門)

私は伊達市で生まれ育ち、20歳で苫小牧の高専を卒業してから今に至るまで、札幌で勤めて13年が経とうとしています。東京の通勤ラッシュの中にいる自分がまったく想像できず、道内に留まることに決めたと記憶しています。おかげで道内各地の仕事に携わることができ、美味しい店もたくさん教えてもらいました。

土木が好きということだけで建設コンサルタント会社に11年勤めましたが、コンサルタントという言葉も知らず、入社前は仕事のイメージもできませんでした。ただ、技術職、専門職というものには当時から漠然とした憧れがありました。

それから交通計画、道路設計、構造物設計と携わり、PCの前に夜中まで張り付き、時に現場で知識と経験を深めました。自分なりにこだわり、深みにはまりながらも周囲に助けられながら、大それたものは成し得られませんでした。振り返ってみれば必死にやってきた満足感だけがありました。

技術士を取得したのは11年目で、論文試験の課題テーマが当時メインで担当していた業務のもので、合格ラインぎりぎり筆記試験を通過できました。面接までのプレッシャーは相当なものでしたが、『不合格なら身の丈に合っていないってことだろ』という先輩の言葉に不思議と気が楽になりました。上司に何度もお願いして面接の訓練をし、無事に取得に至りました。本当に周囲に感謝でした。

その後、仕事の視野を広めたいという思いから転職しましたが、仕事内容は変わっても技術士受験で培われたものは役立っています。論文を整理する過程で、仕事を俯瞰的に見られるようになり、面接に備える過程では倫理観が叩き込まれ、バカ正直かもしれないですが、今の自分の軸になっています。

ここ1、2年は更なる資格への挑戦を怠っていましたが、今回投稿の機会をいただいたのをきっかけに、自己研鑽と社外活動への参加を実行していきたいと思っております。

山岸 央 (やまぎし ひろ)

●建設部門(道路)

勤務先

NTTインフラネット株式会社



→次号は、塚田倫仁さん(建設部門)